

自然誌 だぶり 春

Natural history

三重自然誌の会情報誌 104 号

2015年 6月

てんぐも白くなる！



写真1 上：淡肉色の個体，下：白色個体（どちらも2013年3月25日，鳥羽市石鏡町沖産）

年末にテレビを見ていたら，紅白のアメリカザリガニを飼育繁殖させている方が紹介されていました．白色の個体は，私の学生時代から実験材料や教材として利用されていましたが，紅白のものは初めて見ました．生物界には色素ができない，いわゆる白化個体が現れることは少なくありません．

海産貝類では，県内からの記録ではありませんが，イモガイ科のアコメイモ（鵜飼1989），アルマジロイモ，シロセイロンイモ（鵜飼1991），マルスダレガイ科のアサリ（鵜飼1993）などの白化例が報告

されていますが，私の少ない経験の中では白化個体には出会っていませんでした．

少し前の情報になるのですが，2013年3月25日に，鳥羽市石鏡町沖（水深約20m）に仕掛けた刺し網漁の混獲物の中から，テングニシの白化個体を手に入れましたので記録のため報告します．

テングニシは，房総半島以南の水深10～50mの砂泥底に生息します．殻は20cm以上にもなる大型の貝で，殻は薄い黄褐色のピロード状の殻皮でおおわれていますが，殻は淡い肉色をしています．最初に白化個体を見たときは，通常の個体に比べて白く，死貝のような印象を受けました．手に取ると蓋がついた生きた個体で，殻皮がむけた部分から見える殻の色は，明らかに白く，白化個体であることがわかりました．通常の淡肉色の個体と並べると違いがよくわかります（写真1）．

帰宅後，軟体部のことを気にせずに肉抜きを終わってしまい，軟体部の色を記録するのを忘れてしまったのが心残りです．

鵜飼伸一郎．1989．完全白化？のアコメイモについて．三重動物学会会報，(12)，43．

鵜飼伸一郎．1991．COUNT White Shel．三重動物学会会報，(14)，32-34．

鵜飼伸一郎．1993．白いアサリ．三重動物学会会報，(16)，58．

〈中野 環：度会町大野木1711-1〉

ビロードキンクロ、クロガモがこの冬は多数観察された

今 堀 聖 史

この冬、ビロードキンクロが津市で、クロガモが同市香良洲から明和町で数十羽の群が見られたのでその状況を報告します。

ビロードキンクロは、2014年11月24日に9羽が津市志登茂川河口で確認されました。その後、11月30日に11羽が河口沖で目撃され、12月から1月中旬は同市町屋海岸に10～40羽が居着いて、日によっては波打ち際近くに来て肉眼でも特徴を見ることができました。2～10羽の群で採餌していて大きな群れを作ることとはなく(写真1)、1月末には個体数が少なくなりました。



写真1 ビロードキンクロのつがい(2014年12月22日、津市町屋海岸)

クロガモの群は、12月18日香良洲海岸で発見した時にはスズガモの群と行動していました(写真2)。メスのように見える幼鳥が6～8羽で群れている時もあり、12月20日は5～8羽の群がいくつも観察できました。明和町に100羽ほどの大きな群れがいるという情報があつて12月23日に確認に行き、同町八木戸の海岸で50羽以上と思われる群を確認しました。砂浜に近い海面では幼鳥十数羽が荒波のなかで貝を採っていました。竹杭が点々と立つ沖には成鳥の群が波のうねりの中でいくつも確認できましたが、カウントは不可能でした。十数羽の群が4群確認できたので少なめに50羽としたにすぎません。

橋本太郎(1980)の著書「三重県鳥類の分布とその生態」ではクロガモについて、伊勢湾南部では50～100羽の群を見ることがあるとし、1971年12月26日に大湊～二見沖で200羽以上を記録しています。しかしながら、近年ではクロガモは1～11羽、ビロードキンクロは1～2羽が目撃されているに過ぎません。

2014年11月下旬から2015年1月下旬に、津市から明和町の海岸で両種が数十羽でたびたび目撃されたことは近年にはない個体数で、記録に残しておく意義はあるだろうと思います。図鑑には、北海道や千葉県以北の太平洋岸で越冬することが多いと記されていますが、例年より南下してきた個体数が多かったのか、それとも通常は沖合で過ごしているのが海岸近くに来て目撃されやすかったのか判りません。地味なカモですが来シーズンはどれほど渡ってくるか興味深いことです。



写真2 クロガモとスズガモ(左端)の混群(2014年12月18日、津市香良洲)

〈いまほり きよふみ：津市久居小野辺町 1454-30〉

フクジュソウとシコクフクジュソウの形態的差異について

市 川 正 人・山 本 和 彦

フクジュソウ類に4分類群があることやいなべ市生育のシコクフクジュソウについて本誌100号に記したが、県内既知のフクジュソウ生育地の一つである鈴鹿市のものもシコクフクジュソウとの情報を得た(近畿植物同好会々誌第38号)。そこで、フクジュソウ類のうち県内に分布するフクジュソウとシコクフクジュソウについて、いなべ市の生育地3か所、鈴鹿市1か所、伊賀市1か所、大台町1か所、滋賀県東近江市(鈴鹿山系)2か所で両種の外見的な形態的特徴について調査した。

下表はその結果である。なお、茎断面の観察において限りなく中空に近いことを「やや中実的」と表現した。また、表中調査地のアンダーラインを付したいいなべ市1と鈴鹿市はシコクフクジュソウと同一とされている生育地の個体である。

調 査 地	果 実		果托の毛	茎の断面	葉裏の毛	植物体の色
	大きさ(mm)	密生する毛の長さ				
<u>いなべ市1</u>	3	短い	散生～密生	中空～やや中実的	無～有(少ない)	濃緑
<u>いなべ市2</u>	4	長い	密生	中空～やや中実的	有(多い)	鮮緑
<u>いなべ市3</u>	4	長い	密生	中空～やや中実的	有(少ない)	濃緑
<u>鈴 鹿 市</u>	4	中間的	密生	中空～やや中実的	無～有(少ない)	濃緑
<u>伊 賀 市</u>	4	中間的	密生	中空～やや中実的	無～有(少ない)	濃緑
<u>大 台 町</u>	3	短い	無毛～散生	中空～やや中実的	無～有(少ない)	濃緑
<u>東近江市1</u>	4	長い	密生	中空～やや中実的	有(多い)	鮮緑
<u>東近江市2</u>	4	長い	密生	中空～やや中実的	有(多い)	鮮緑

8か所においてフクジュソウとシコクフクジュソウの形態的特徴について比較検討したが、今回の調査結果からは明瞭な違いは認められなかった。あえてあげれば、果托に生える毛の状態くらいである。この点では大台町に生育のものだけがほぼ無毛でシコクフクジュソウに相当する。鈴鹿市に生育のものがシコクフクジュソウとする分類が正しければ、形態的には伊賀市もシコクフクジュソウとなる。しかしながら、今回の形態的特徴の調査結果からは、いなべ市、鈴鹿市、伊賀市、東近江市はすべてフクジュソウであり、大台町だけがシコクフクジュソウとするのが妥当と思われる。

なお、染色体数はフクジュソウ： $2n=32$ 、シコクフクジュソウ： $2n=16$ と明らかに異なるようであるが(西川恒彦氏私信)、形態的には西川氏同定済み生育地のものも含めて両者は連続的で、観察による同定は困難であった。

調査にあたって、生育地を案内して頂いた高松隆吉、川竹守、出口幸雄の各氏に感謝します。



1 毛が短い大台町の果実(2015.4.16) 2 毛が中間的な鈴鹿市の果実(2015.4.23) 3 毛が長い東近江市の果実(2015.5.2)

〈いちかわ まさと：四日市市堀木1-4-5、やまもと かずひこ：尾鷲市小川西町8-40〉

疥癬によるカモシカの死亡例

清水 善吉

疥癬はヒゼンダニの寄生による皮膚感染症で、罹患すると体毛が抜け、痒みがあります。体毛の抜けたタヌキやキツネなどの交通事故死体を目にされた方もお見えではないでしょうか。タヌキの痒いのがなぜわかる？との疑問はもっともですが、私自身の経験です。30年ほど前に感染し、人ですから抜けるほどの体毛はありませんが、うずうずとした不快な痒みが長期間続きました。病院で処方された塗薬や硫黄成分の入浴剤六一〇ハップを入れて入浴したりもしましたが改善せず、三重大名誉教授の故・山下善平先生（昆虫学）に農薬DDTをわけてもらってワセリンに混ぜて塗布したら劇的に治りました。結婚前後のことで（パートナーにも当然感染した）、微妙な部分も患部の一部であったので、使用禁止農薬を体内に浸透させることが少し不安だったのが昨日のこのようです。

さて、カモシカ *Capricornis crispus* でも一部の地域でヒゼンダニ（*Chorioptes* 属と *Sarcoptes* 属）の感染による疥癬が蔓延しているそうですが（猪島2013）、県内における報告はみあたりません。今春、同症によると思われるカモシカの死亡事例に関与する機会がありましたので報告します。

4月11日の9時過ぎに、松阪市飯高町波瀬にある「グリーンライフ山林舎」というわれわれも調査のときにお世話になっている宿泊施設から電話がありました（写真1）。要件は、施設のエアコン室外機の側にカモシカが居着いており、腹のあたりにケガをしているようだがどうしたものでしょうか？というものでした。

とりあえず、写真を撮ってメールで送ってもらったカモシカをみると、腹部あたりの毛がなくなり一部がカサブタ状になっています（写真2）。この症状はタヌキなどでよくみる疥癬と思われましたので、念のため知り合いのカモシカ研究者にもメールを転送し、獣医さんによる所見も依頼しました（後に疥癬であろうとの回答をもらいました）。

また、その日は土曜日でしたので伝手を頼って管轄の松阪市教育委員会に対応をお願いしたところ、「そっとしておいてください」という電話を山林舎にしてくれたようです。ん！ちょっと待て、このフレーズ聞いたことがあるぞと思い記憶をたどると、過去に同市内の阪内川でオオサンショウウオがいるのを住民が通報したときの対応と同じであることに気づきました（本誌86号）。

そおっとーそのまま♪♪なんて心地よい響きでしょう。歌のフレーズならよいでしょうが、疥癬は人にも感染しますので、現地に足を運んで状態を確認し、宿泊客等がカモシカに触れたり（この行為は文化財保護法違反でもある）、近寄ったりすることがないように注意を促すことが必要だったのではないのでしょうか。先のオオサンショウウオにしても、一時捕獲をして外部計測やマイクロチップの読み取り・登録、遺伝子解析等により来歴の特定につながる情報がないかを調べるべきだったと思います。そっとされたままのオオサンショウウオが棲む坂内川では、その後、大規模に土取りが行われましたので、この個体も犠牲になっている可能性があります。松阪市民の一人として、天然記念物行政



写真1 櫛田川右岸の山裾に立地する山林舎。標高335m、環境庁3次メッシュ5136-5101



写真2 室外機の側にたたずむカモシカ（4月11日）、山林舎提供



写真3 室外機の側に座り込んだカモシカ（4月12日），
山林舎提供



写真4 死亡したカモシカ（4月13日），三重県提供

についてももう少し積極的な対応をとるように切にお願いしたいと思います。

さて、山林舎のカモシカですが、11日の昼過ぎには林内に姿を消したとの連絡がありましたので安心していましたが、翌12日の昼過ぎに再び同じ場所に姿を現し（写真3）、「こちらが頭を下げると返事をするかのように頭を下げてくれます。通りがかったご家族の子どもさんも挨拶を何度も交わしていました」そうですので、宿泊客とのふれあいがあったことがわかります。

翌13日朝には、数段の階段を踏み外すなど相当衰弱しているとの連絡がありましたので、県教育委員会に対応を依頼しました。10時40分頃に今度は死亡連絡がありましたので、現場に向かっている途中の県職員にも伝えました。県と市の担当者は昼過ぎに現地に着き、死亡個体の確認と齢査定用に角や組織の採取をして（写真4）、後は埋設処分をしたそうです。この間に、おそらく何人かの方が素手でカモシカをさわっていることと思われ、それらの人たちにヒゼンダニが移っていないか、経験者として気がかりです。なお、疥癬による脱毛は腹部から背部にかけて広範囲にみられ、皮膚の一部が象皮様化している症状から重度であったことがうかがわれ、本個体の死因になったものと推認できます。

カモシカの皮膚感染症といえばパラボックスウイルス感染症がよく知られ、県内でも発症例が報告されています（例えば、三重県教育委員会ほか2010）。今回、疥癬による死亡事例も確認されましたので、各市町担当部署への周知と対応マニュアル等の整備が必要です。

没頭の体験談で、お前が感染したのはなぜ？との興味を持たれた方もおみえではないでしょうか。艶っぽい事情をご期待の方には申し訳ないのですが、私の下宿に遊びに来た弟が使った座布団から移ったようです。弟は、バイクで転んで骨折して入院した病院のベッドで感染し、当時すでに痒かったそうで、腹立たしく思った憶えがあります。これらのことは、皮膚の接触がなくても感染することを示しています。

最後に、第一報をいれていただいた山林舎さんや各種情報を提供してくれた名和明さん、山崎亨獣医師、また対応にあたられた松阪市・三重県教育委員会の皆さんに感謝いたします。

猪島康雄. 2013. 野生ニホンカモシカにおけるパラボックスウイルス感染症. 日獣会誌, 66, 557-563.

三重県教育委員会ほか. 2010. 紀伊山地カモシカ保護地域第4回特別調査報告書平成20・21年度. 219p.

〈しみず ぜんきち：松阪市日丘町1386-17〉

会員の本

くまの・みち叢書8 熊野古道の獣 清水善吉・著

三重県立熊野古道センター・2015年3月発行、A6版87頁、カラーポケットサイズのフィールドガイドで、三重県の哺乳類のガイドブックとしても利用できます。この本については、手前みそになりますので何とも言いにくいですが、値段が安い（500円）のはグッド。問い合わせは古道センター（0597-25-2666）か事務局まで



飯高町木梶と蓮の蝶の記録

長谷川 好 昭

2014年7月12日、13日に松阪市飯高町木梶の梶谷林道および蓮の宮ノ谷で実施された生物の調査において採集および目撃した蝶を報告する。

ツマジロウラジャノメに関して昔は高見峠がある木梶は多産地であったが、現在は植生が変化してあまり見られなくなった。一方、蓮は今でも多産地である千石谷を控え、下方の宮ノ谷も今回幼虫が採れたので健在のようである。また、アサギマダラの食草に関して、過去に調べられた記録をまとめた中西（2003）によるとイケマ、オオカモメズル、コカモメズル、キジョランがあり、近年ではガガイモとイヨカズラが追加された（中西2012）。

採集、目撃記録は以下のとおりである。なお（ ）内は食草を示す。

- ・ 7月12日、松阪市飯高町木梶梶谷林道
 - コチャバネセセリ 1 幼虫採集（ササ類）
 - キマダラセセリ 1 幼虫採集（イネ科）
 - ムラサキシジミ 1 頭採集
 - キタキチョウ 1 頭採集
- ・ 7月13日、松阪市飯高町蓮宮ノ谷
 - ツマジロウラジャノメ 1 幼虫採集（ヒメノガリヤス）（写真1）
 - アサギマダラ 1 幼虫目撃（オオカモメズル）（写真2）
 - ムラサキシジミ 1 頭採集
 - イシガケチョウ 1 頭目撃

最後にアサギマダラの幼虫を発見し、食草であるオオカモメズルを同定および撮影して頂いた細川健太郎氏に深謝する。

中西元男. 2003. 三重県のアサギマダラの食草. ひゃくとりむし, (239), 2857-2863.

中西元男. 2012. イヨカズラからアサギマダラ幼虫を採集. ひらくら, (433), 48.

（はせがわ よしあき：鳥羽市鳥羽1丁目23-4）



写真1 ツマジロウラジャノメとヒメノガリヤス



写真2 アサギマダラとオオカモメズル

改定レッドデータブック刊行

「三重県レッドデータブック2015」がこのたび刊行されました。今回は「同2005」ですので、ちょうど10年での改定です。各種の写真はありませんが、解説に分布図がつけられ、1冊にまとめられていますので757頁もあります。個人的に残念なのは、書名に副題（～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～）がつけられたことです。引用する際の利便性を考えた前回の引き継ぎがなされなかったのでしょうか。購入もできますし（3千円/共立印刷株式会社 059-268-4111）、ウェブサイトでもごらんいただけます。



調査用地形図を印刷する裏ワザ その2

中 優

本誌 96 号で、調査用地形図を印刷する裏ワザとして、DAN 杉本さんが公開しているフリーソフトの「カシミール 3D」を紹介しました。その後ソフトのバージョンアップ（最新は Ver 9.2.1）があり、操作内容に変更が出てきましたので、改めて説明します。

1. カシミール 3D を立ち上げると、「ようこそカシミール 3D へ」の画面が表示されるので、3 番目にある国土院の「地理院地図」を利用するの「使ってみる」を選択します。
2. 富士山が表示されるので、「ファイル」の下にある「縮尺の変更（土虫めがねのアイコン）」、次に「地理院地図（新版）レベル 5」を選択します。画面をスクロールして必要とする場所を画面中央にもってきます。この作業を「レベル 12」まで 1～2 段ずつ繰り返します。
3. 「表示」の「表示測地系の設定」で「Tokyo」を選択します。次いで「表示」の「表示の設定」の「緯線経線」で（間隔）緯度に“5 分”，（間隔）経度に“7 分 30 秒”を入力し、線の色，太さ，線種を選びます。同じく「緯線経線（補助線）」で（間隔）緯度に“30 秒”，（間隔）経度に“45 秒”を入力し、線の色，太さ，線種を選びます。※この項の作業は毎回行う必要はありませんが一度設定しておくで、以前環境庁が作成していたメッシュ図と同じメッシュ図（図 1 参照）が作成できるので便利です。必要なければ省略してください。
4. 「地理院地図（新版）レベル 12」の画面で、「編集」の「選択範囲を決める」で印刷したい範囲を決めます。私の場合、A3 では横位置で 6×7 メッシュ，縦位置で 8×5 メッシュを選択範囲にしています。
5. 選んだ範囲の詳細な地形図を読み込ませるために、「縮尺の変更」で「地理院地図（新版）レベル 15」を選択します。
6. 保存は、「ファイル」，「表示画像を保存」，「選択範囲を保存」の順に選択すると、「選択した範囲の未収得の地図をインターネットより習得しますか？」の画面が表示されるので、「はい」を選択します。地図のダウンロードが終わったら、保存の画面が表示されるので、好きなフォルダーに保存（通常はデスクトップ上が便利）し、カシミール 3D を終了します。
7. 印刷には、保存したファイルをダブルクリックして Windows フォトビューアーを立ち上げ、用紙の大きさなどの設定を行い印刷します。この時、「画面の印刷」でフルページ写真の場合、下部にある「写真をフレームに合わせる」にチェックが入っていると一部が欠けてしまうので気を付けてください。
8. Windows フォトビューアーで、「開く」，「ペイント」を選ぶと、地形図に目的の範囲を囲ったり、手書きで文字を書いたりできるので、この機能も便利です。

ご不明な点があれば私まで問い合わせてください。

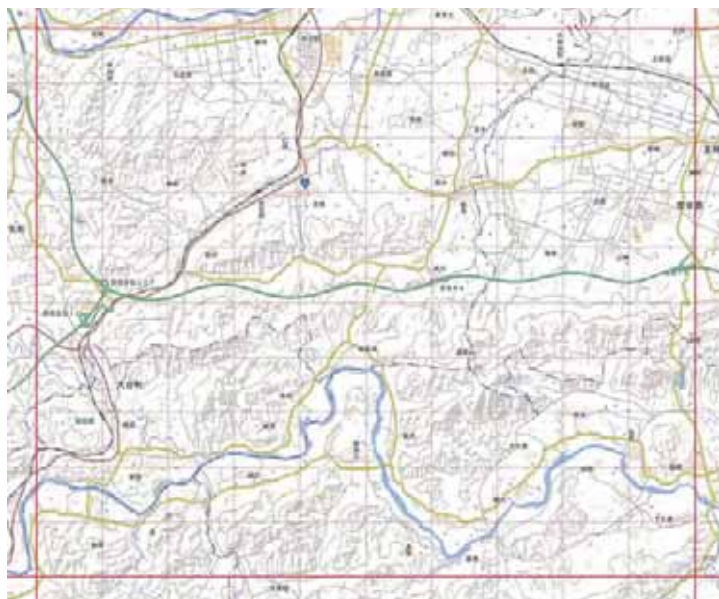


図1 メッシュマップ

〈なか まさる：伊勢市小俣町本町 1284〉

御浜町の茶畑でテングコウモリを確認

テングコウモリ *Murina higidorfi* はヒナコウモリ科に属し、県内においてはいなべ市から尾鷲市にかけて約20か所で確認されています(佐野2015)。今回、これまで生息の知られていなかった熊野地域から本種の情報を得ることができたので報告します。

三重クモ談話会の採集会が2012年10月21日に御浜町坂本地内で行われ、会員の武藤茂忠さんが放棄された背丈ほどもあるチャノキをビーティングしたところ、コウモリが落ちてきたそうです。なお、ビーティングとは木の枝などにとまっている虫を採集する方法で、枝の下を網で受け、枝を棒でたたいて虫を網に振り落とします。

このコウモリは、金色の毛が生えていたことから「ゴールデンバット」や「シルバーバック」と勝手に呼んで写真撮影後に放したとのことでした。その写真を、塩崎哲哉さんが「珍しいコウモリ見つけた。金色やぞ」ということでメールしてくれ(写真1, 2)、やや突き出た鼻や採集のされ方から県内で1地点しか記録のないコテングコウモリかと喜び勇んでコウモリ研究者の佐野明さんに転送したら、「どう見てもテングコウモリ」との回答でした。いいわけですが、学生時代にネズミの罠かけをしていたら木の枝からコテングコウモリが落ちてきたことがあり、枝で休息しているのはコテングの思いこみがありました。

テングもコテングも鼻が突き出ているのが特徴ですが、それほど高いわけではなく、控えめな天狗というところ。両種は前腕の長さが異なるようなので標本があればよかったのですが、家ネズミ以外の哺乳類は許可なく捕獲できませんので、放してしまったことを責められません。いずれにしても、これまでテングコウモリ未記録であった熊野地域での生息確認は貴重です。

記録 確認日：2012年10月21日、場所：御浜町坂本地(環境庁三次メッシュ5036-6030) 標高190m、
採集者：武藤茂忠、備考：チャノキをビーティングして採集

本稿を作成するにあたっては文中にお名前をあげた方々にお世話になりました。感謝いたします。

佐野 明. 2015. テングコウモリ. 三重県農林水産部みどり共生推進課(編・刊), 三重県レッドデータブック2015～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～, p.43.

〈清水善吉：松阪市日丘町1386-17〉



写真1 顔面(塩崎哲哉・撮影)



写真2 背面(塩崎哲哉・撮影)

編集後記

最初と最後がテング記事でしたが貝の「テング」名の由来は?たより夏号は9月発行予定、会誌の原稿も募集しておりますので、長短問わずお気軽にご投稿ください(善)。

自然誌だより104号

発行日 2015年6月1日

事務局 〒515-0835 松阪市日丘町1386-17

清水善吉方 三重自然誌の会

<http://www.zb.ztv.ne.jp/mie-shizenshi>

発行者 三重自然誌の会

郵便振替口座 00800-5-17842 三重自然誌の会

年会費 1,500円(個人)/2,000円(家族)

e-mail: mie-shizenshi@zb.ztv.ne.jp